菊川町埋蔵文化財調査報告書第46集

長池（ながいけ）Ⅱ遺跡

1997

静岡県菊川町教育委員会

菊川町埋蔵文化財調査報告書第46集

長池（ながいけ）Ⅱ遺跡

1997

静岡県菊川町教育委員会

例　　言

1．本書は、平成８年６月10日から17日にかけて実施した静岡県小笠郡菊川町加茂3488－1地内に所在する長池Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査を行うに至った原因は、周知の遺跡内において町道改良工事が計画されたためである。調査に要した費用は、菊川町が負担した。

3．発掘調査は、菊川町教育委員会が実施した。

調査主体	菊川町教育委員会
調 査 員	塚本和弘
作 業 員	井指秋雄・高岡三郎・服部喜三郎・長谷山寅男・山川加知夫 小林好子・堀内初代・織部節子・丸尾安代・福井京子
整 理 員	萩原紀江・吉野由喜子・中川由美子

4．本書の執筆は塚本和弘が行った。

5．遺物整理及び実測図の挿図作成は松井由美子、堀内初代の協力を得た。

6．遺構・遺物写真は塚本が撮影した。

7．本調査及び本書刊行に関する事務は、菊川町教育委員会生涯学習課が行った。

教　育　長	鈴　木　静　夫
局　　長	横　山　守　孝
生涯学習課長	横　山　守　孝
文化振興係長	石　川　睦　美
文化財担当者	塚　本　和　弘
事　務　員	青　木　正　子・丸　尾　淳　子

8．実測図・写真及び出土遺物は、菊川町教育委員会が保管している。

目　　次

第Ⅰ章　調査の経過……1

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境……4

第Ⅲ章　調査の概要……6

第Ⅳ章　まとめ……12

挿　図　目　次

第１図　位置図……1
第２図　グリット配置図……2
第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡……4
第４図　土層図……6
第５図　全体図……7
第６図　ＳＸ－１平面図……9
第７図　出土遺物実測図……11

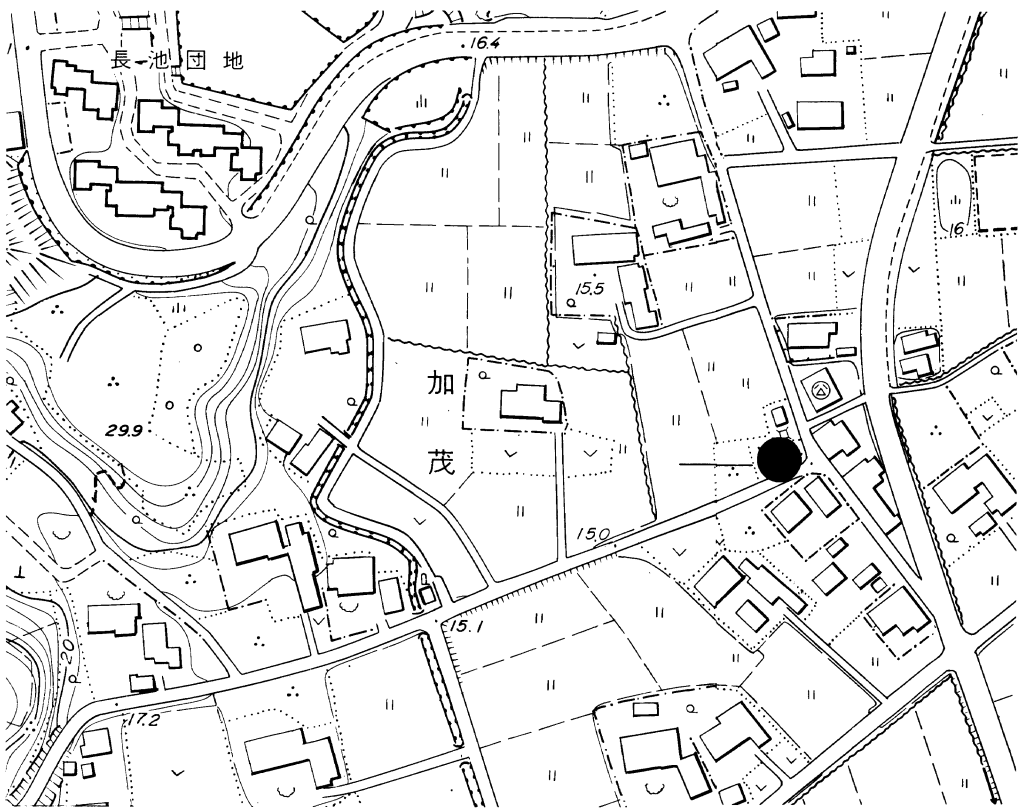
写真図版目次

図版１　調査風景
図版２　調査区完掘
図版３　土層状態
図版４　ＳＤ－１～３完掘
図版５　ＳＸ－１完掘
図版６　出土遺物

第Ⅰ章　調査の経過

菊川町は、ＪＲ菊川駅周辺を核に住宅地が南北に広がる人口３万の町である。近年の急激な人口の増加に伴い交通の体系の整備の見直しが問題となっている。

菊川町の交通路は、菊川に沿うように町の中心部から東名菊川インターチェンジ、さらに浜岡町を結ぶ主要地方道掛川・浜岡線と上小笠川沿いに、掛川市から内田地区、小笠を結ぶ県道小笠・掛川線の二路線で南北を結ぶ道路として機能している。加茂地区の長池村周辺では、この両主要道の中間にあたり、県道高瀬・菊川線が主要道として走る。高瀬・菊川線の、北は掛川・浜岡線と菊川インターチェンジ付近で合流し、南は下内田耳川で小笠・菊川線と交差し平尾さらに大東町へと延びている。しかし、長池村から掛川・中内田など西へ行くには、この道路を利用すると一度南下し下内田からまた北上するコースとなり時間的にかかり不便となっている。そのため、町道杉森・長池線を利用し御門で小笠・菊川線に合流するコースが主要となっている。この町道は、車の擦れ違いが出来ない幅の狭い道で交通量が多く危険であったため地元から整備が要望されていた。また、県道等広域幹線道路と結ぶため、交通体系や安全性・利便性を重視した道路機能の充実を図るため杉森・長池線の整備を第５・６次５ケ年



第１図　位　置　図

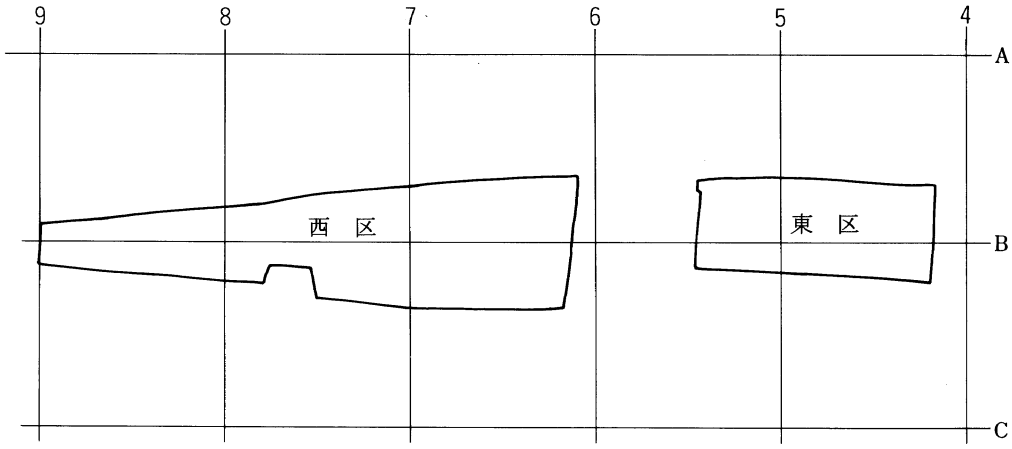
計画で事業を行うこととなった。

道路整備計画の路線内には、埋蔵文化財の包含地として内田地区の頼実遺跡・原山遺跡、加茂地内では長池古墳群が分布していた。さらに加茂地区の長池村付近では調査によって長池橋遺跡など新たに遺跡が発見され路線内に遺跡が分布している可能性があったため工事着手前に確認調査を行うこととなった。本年度は、長池公会堂地点より西へ 130mまでの道路拡張工事内について平成8年4月22日に調査を実施した。その結果、公会堂より茶畑にかけての50mの間より弥生時代から江戸時代の遺物が出土したため新たな遺跡として遺跡番号231長池Ⅱ遺跡とした。

長池Ⅱ遺跡の取り扱いについて、建設課と教育委員会の両者で協議し、工事着手前に調査を実施することとなった。調査にあたり調査費の事務処理上の問題と交通路や排水路などの工事関連の問題もあり、表土及び排土処理については工事請負業者が行い現地調査を6月より行う運びとなった。

調査は、道路拡張計画範囲210㎡を対象とした。現地区内を10m方眼のグリットに区切り、このグリットを基準に発掘調査を実施した。各グリットは、東西を数字にし、南北をアルファベットとして設定した。また調査区が、現況道路を挟んで二ケ所となったため西側を西区とし東側を東区と呼称した。基準の基軸の方位は、N－61°30′00″－Wである。

調査の方法は、工事計画内の表土をバックフォーにより除去後、人力によって遺構検出作業、精査作業、計測作業、写真撮影作業の順に従い行う。遺構検出及び精査作業には、唐鍬、鋤簾、移植ゴテなどの道具を使用し、数cmずつ掘削を繰り返し行い遺構の検出を各層位ごとに行う。遺物は、現位置に留め光波測機により取り上げを行う。各遺構・遺物は出土状態及び完掘状態で計測・写真撮影を行い完掘する。計測作業は、不二総合コンサルタント株式会社に基準点の設定を依頼し、調査区の南にＫＢＭ１



第2図　グリット配置図

(15.353) を設定し、これを基準に測量をした。グリットＢ９ポイントは、国家座標のＸ＝－140508.204、Ｙ＝－37998.394 にあたる。遺構実測は基本的に１／20の縮尺とした。写真撮影には6×7版カメラと35㎜カメラを使用し、白黒フィルムとカラーフィルムを併用した。撮影方法は、高所作業車を利用し撮影を行った。

経　過

平成８年６月10日　重機による表土剥ぎ作業

11日　器材を搬入し調査を開始する。まず、調査区内に排水路を設定し掘削する。

12日　調査区の設定の杭打ちと西区の精査作業を行い溝を２ケ所検出する。各溝はＳＤ－１、ＳＤ－２とし掘削作業を行う。

13日　Ａ６・Ｂ６区内でＳＤ－３・４を検出し、掘削作業を行う。午後、雨のため現地作業を中止する。

16日　東区の掘削を行い、井戸状遺構を検出する。西区は排水作業を行った後各遺構を完掘し、計測作業する。

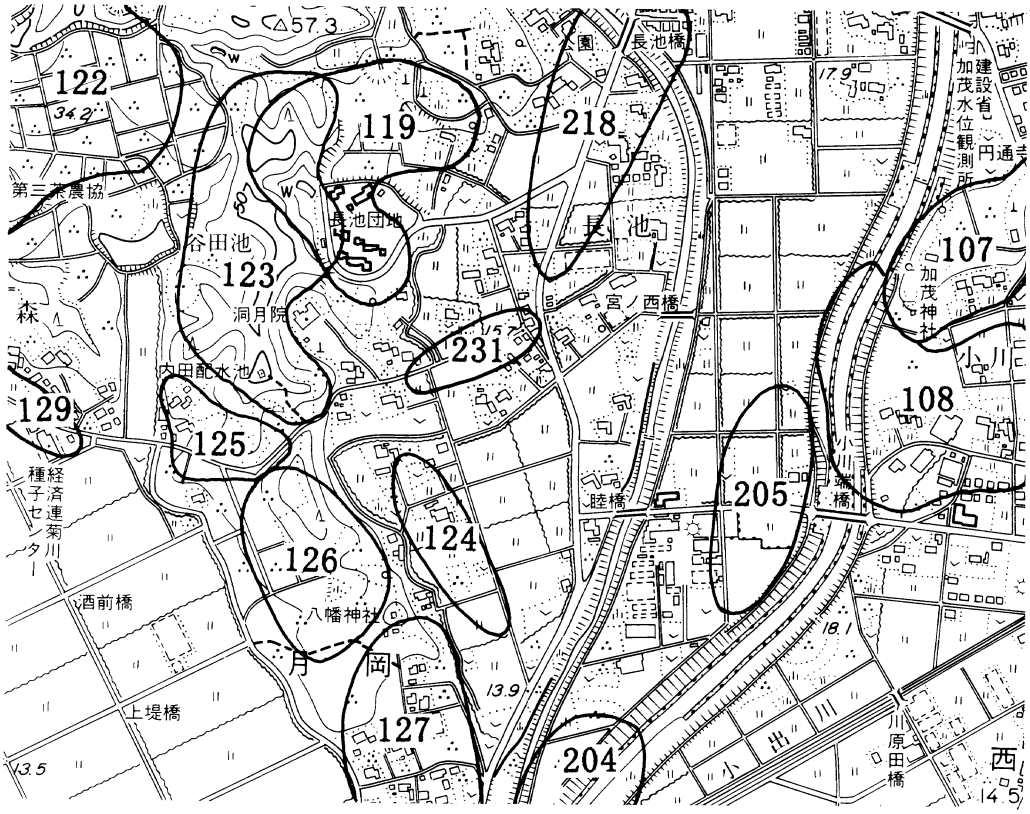
17日　東区の井戸状遺構を掘削し完掘する。その後、東・西区の掃除を行い完掘写真撮影と計測作業を行う。一方で器材を撤去し現地調査を全て完了する。

写真図版１　調査風景

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境

長池Ⅱ遺跡は、菊川町加茂字長池に所在する。加茂地区は南流する菊川とその支流西方川の間に位置する。加茂の地名については、地内の加茂神社に由来とされるが、鎌倉時代の荘園名として文永２年２月７日の遠江国三代起請地并三社領注文写（教王護国寺文書１）に下賀茂庄とみえ賀茂が加茂と変化したとされる。加茂地区は、近世の文献遠淡海地志によれば加茂村に小字として白岩、西袋、小川端、長池があり昭和29年の菊川町合併後も現在の地区の村構成と変わらない。長池は加茂地区でも最も南に位置し、西は丘陵が南北に延び内田の境となり、東から南には西方川が南流し菊川と合流する。集落は、西方川によって形成された自然堤防上にみられ遺跡の分布と重なる。近年、長池団地が丘陵部に造られたが、菊川と西方川によって形成された肥沃な沖積地には水田が広がり農村地帯となっている。

この地域の歴史を遺跡の分布よりみてみよう。長池Ⅱ遺跡の周辺には、11ケ所の遺跡が分布している。これらの遺跡の所在は、近年の開発に伴う発掘調査ににによって発見されたものである。この地域に人が住み始めたのは、縄文時代で 119長池遺跡など地形的にもやや小高い丘陵上に求められる。長池遺跡では、縄文時代～古墳時代にか



第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡

けての複合遺跡で昭和62年度の発掘調査で集落址が発見されている。特に縄文時代早期末～前期の集落は、町内で唯一発見されたもので注目される。弥生時代になると、集落の立地にも変化がみられ後期では、丘陵部から沖積地まで生活の場となっている。125原山遺跡、126助九郎遺跡、127月岡Ⅱ遺跡など後期の集落が、比較的低位な丘陵縁辺部にみられる。沖積地には、自然堤防上に204若宮遺跡、218長池橋遺跡、231長池Ⅱ遺跡が立地している。これらの遺跡は、白岩遺跡や内田地区の東ノ坪遺跡などの中核的な遺跡とは違い小規模集落であったと考えられる。古墳時代になると、前期までは長池遺跡などに集落が認められるが、この時期以降、集落の変遷を追うことは難しく奈良時代までこの地域では発見されていない。しかし、丘陵部の山頂部には中期から後期にかけての古墳が築造されている。古墳は、洞月院裏から長池団地周辺にかけて集中する 123長池古墳群にあたり、高塚古墳群と横穴群からなる。高塚古墳は、丘陵部に露頭する白岩疑灰岩を石室の石材として利用し古墳を築造している。石室の石材の石切場が長池団地の北地点に残る。横穴は、斜面の中腹部に穴を掘り込むもので菊川流域での後期古墳群の特徴となっている。奈良時代から中世にかけては124長池南遺跡、205宮ノ西遺跡、107小川端Ⅰ遺跡、108小川端Ⅱ遺跡がある。菊川の右岸に分布する長池南遺跡、宮ノ西遺跡は散布地として確認されているが調査されていないため明らかでない。菊川の左岸に分布する小川端Ⅰ遺跡では、中世瓦を出土する遺跡として注目されている。小

写真図版 2　調査区完掘

川端Ⅱ遺跡では、中世の掘立柱建物跡が検出されており集落址が広がっている。近世では、掛川藩領天禄10年三河国吉田藩領を経て後、旗本大久保氏、城氏、太田氏の相給となる。村高は1,984石余であった。稲作生産では、常に水争論が絶えず享保６年の三箇村為取替証文により菊川の水の取水時間を決めて行われていた。現在では大井川用水を始め用排水設備が充実しているものの、この地域の水事情は一級河川が流れているもののあまり良好とはいえない。この時代の芸術・文学で、長池には寛政年間の頃書家として活躍した織部鳧山の生家があり先人の業績が忍ばれる。

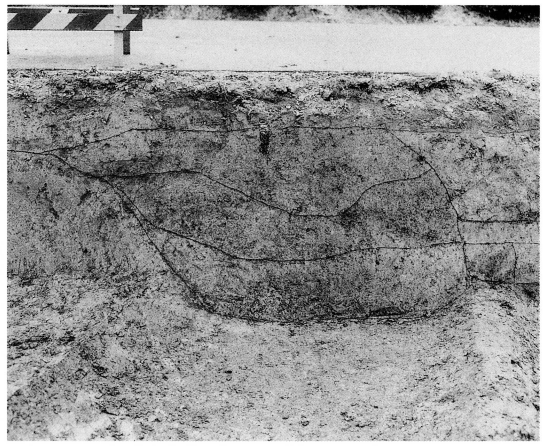
第Ⅲ章　調査の概要

調査地は、道路拡張部と狭い上、耕作土下面の比較的浅い所から遺構検出を予想したが、調査が進むにつれ遺構面は表土１ｍ前後とかなり深い所におよび、掘削土を搬出するに人力では困難であったため重機を用いて搬出した。そのため、安全対策上調査範囲も規制し行うこととなった。調査地点の東区は、民家跡であったため攪乱が一部下層まで及んでおり遺跡の保存状況は良好とはいえなかった。西区では、地形が西に緩やかに傾斜しているものの現在の水田よりも遺構検出面が深くなり、水が逆流する結果となった。さらに、用排水路が整備されていないため水処理に苦慮した調査であった。

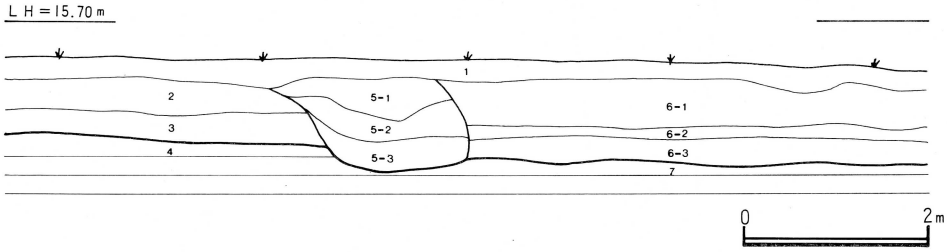
土　層（第４図）　今回の調査では、４層に分層して基本層序を理解した。

１層　　表土
２層　　茶褐色粘質土
３層　　黄茶褐色粘質土
４層　　明茶褐色粘質土

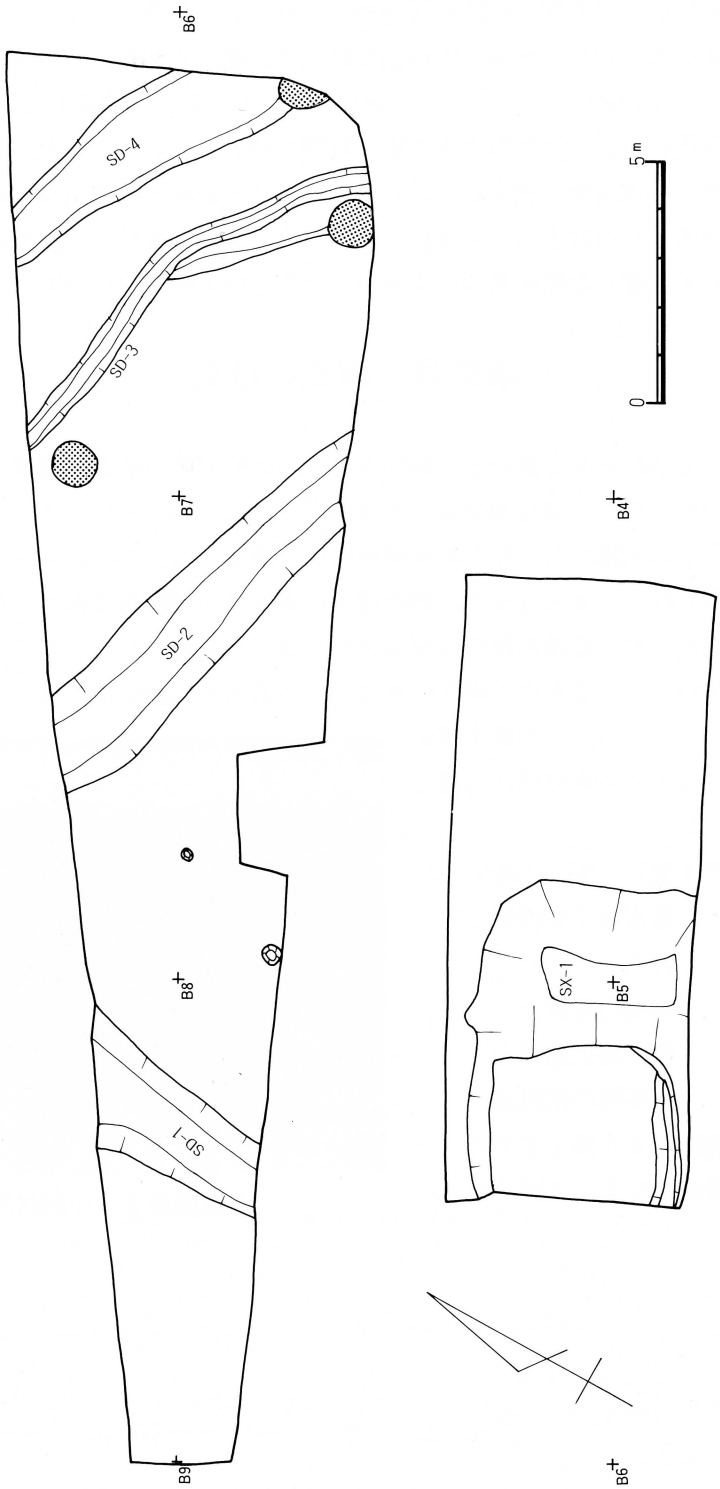
１層は、道路による盛土でアスファルトや砂利層からなる。２層は40㎝の



写真図版３　土層状態



第４図　土　層　図



第5図 全 体 図

厚さで旧表土層及び耕作土となる。３層は遺物包含層となっている。土層は厚さ20～30㎝で安定した堆積となっている。４層は基盤層で遺構検出はこの上層面で確認を行った。５層はＳＤ－１の覆土内の層序となっている。６層は後世の盛土層で７層が旧水田面となっており、近代の時期のものである。土層観察よりＳＤ－１を境に東では自然堤防が広がり、西には、灰青色粘土層が卓越した後背湿地となる地形と考えられる。

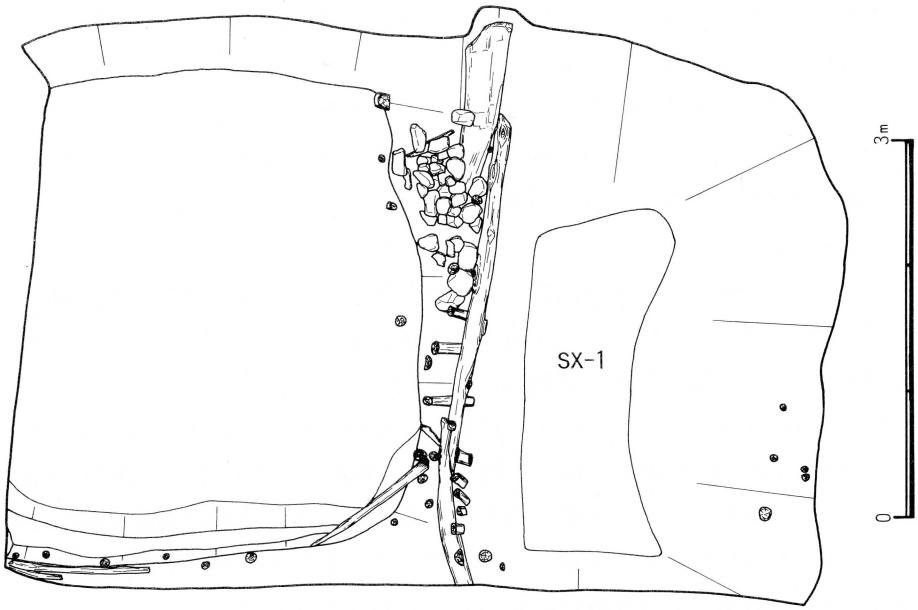
遺　構（第５図）　検出された遺構は、溝（ＳＤ）４箇所、井戸状遺構（ＳＸ）１ケ所、柱穴２本である。

ＳＤ－１（第５図）　西区の西側Ａ８・Ｂ８区に位置する。溝の大きさは、幅２ｍで深さは１ｍを測る。遺構は水田を盛土した後、掘り込まれているもので近世以降の新しい時期の溝と考えられる。遺物は、出土していない。

ＳＤ－２（第５図）　西区の中央に位置し、東西に延びている。溝の大きさは、幅1.5～2ｍ前後、深さ25～30㎝を測る。掘り方は、底面が比較的平らで断面が皿状を呈する。覆土は、黄褐色土で炭化物を含んでいる。遺物は、今回の調査で検出された遺構の中では出土量が最も多く土器が出土している。土器は、弥生土器（1～6）である。遺構の年代は、遺物より弥生時代後期のものと判断される。

ＳＤ－３（第５図）　西区内Ａ６・Ｂ６区に位置する。溝はＳＤ－２・４の中間にあり、方向も平行して延びている。溝の大きさは、幅50㎝、深さ10㎝を測る。覆土は粘質の強い土である。遺物は、覆土内より近世陶磁器片が出土している。年代は、近

写真図版４　ＳＤ－１～３完掘



第6図　ＳＸ－１平面図

写真図版5　ＳＸ－１完掘

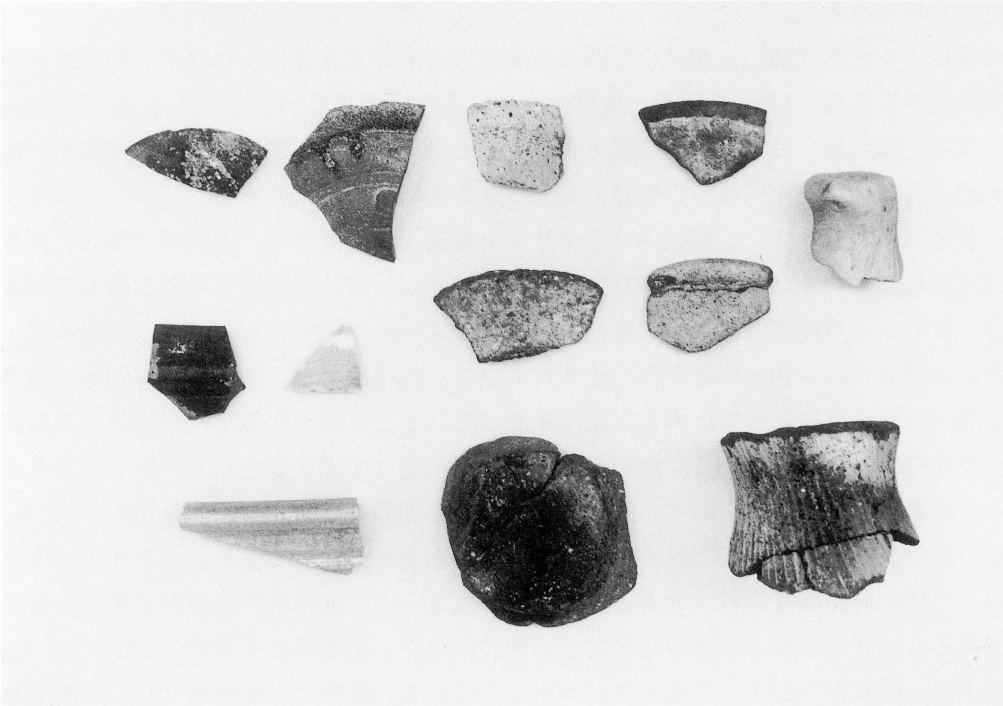
世のものであろう。

ＳＤ－４（第５図）　西区の東隅に位置する。溝の大きさは、Ｂライン地点では東側に幅が広くなり1.8ｍを測る。検出面からの深さは北では10㎝と浅く、南では20㎝となる。覆土はＳＤ－３と同位層で管鉄を多く含んでいる。遺物は、近世陶磁器（10）が出土している。年代については、ＳＤ－３と同時期と考えられる。

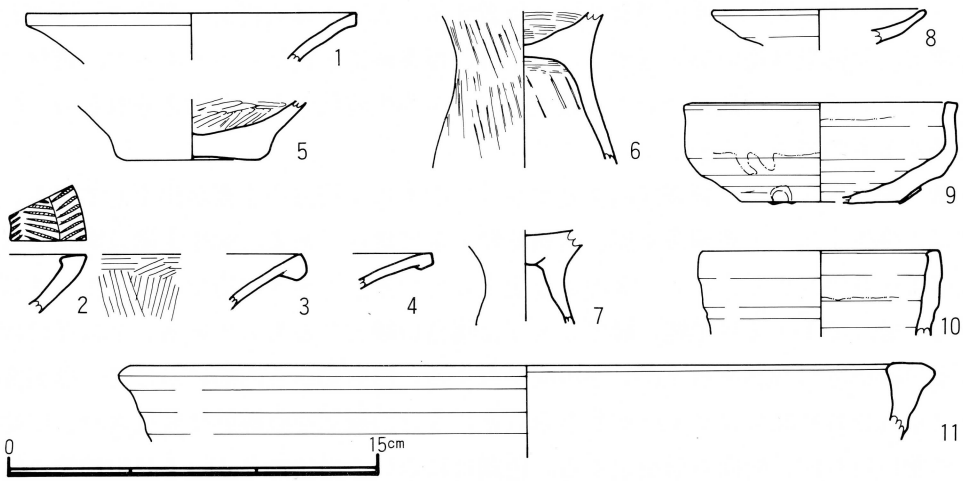
ＳＸ－１（第６図）　東区内Ｂ５グリット杭周辺に位置する。遺構の一部は、調査区外に延びているため全形を知り得ることはできないが、平面形は不整な隅丸方形となっている。規模の大きさは、東西3.3ｍ×南北4.4ｍ、深さ2.3ｍを測る。壁面の東・西には直径５㎝～10㎝の杭が打ち込まれている。西壁面では、南北に直径20㎝の横木を並べそれを杭によって止める工法で土溜している。また、北側では径20㎝程の河原石が並べられ補強している。河原石の中には火を受けて赤く変色しているものやタールが付着したものがみられる。井戸状遺構の西壁面側の南地点では、溝が直行し走る。この溝の北壁面には杭列がみられ直径10㎝の横木が並べられており、ＳＸ－１へ水を引くための流路機能を有する溝と考えられ、ＳＸ－１の性格を考える上で重要なものであろう。底部には、木枠や杭列などの施設はなく、素掘りとなり平らとなっている。覆土は、暗灰青色粘土で腐食土や石が出土している。遺物は、陶磁器（11）が出土している。年代については、出土遺物より近世の遺構と判断される。

柱　穴（第５図）　西区のＢ７区に位置する。大きさは直径20㎝前後で、深さ20㎝を測る。平面形は楕円形を呈する。覆土は、黄茶褐色と絞った土であった。遺物は、出土していない。時期については覆土などから弥生時代のものと考えられＳＤ－２と関連するものであろう。

遺　物（第７図）　調査区内よりポリコンテナに１箱分の土器が出土している。土器は、弥生土器、山茶碗系土器、陶磁器類で全て破片である。弥生土器は図示できたのは１～６の６点で、ＳＤ－２内より出土している。１～５は壺である。１～４は口縁部の破片で１・２は単純口縁で３・４は複合口縁となるものである。２は受口状となる口縁部で口唇部を水平にし平坦面を有する。口唇部から内面にかけて、櫛刺突羽状文が施され外面にはタテハケがみられる。３は口縁部を直線的に外反させ、口端部を外側に折り曲げ断面方形を呈する。色調はにぶい赤褐色である。４は口端部の折り曲げは小さく長方形となる。色調は暗灰色である。表面は風化が著しく調整は不明である。５は底部の破片で、上底状となる。色調は灰色で、法量は直径６㎝を測る。６は台付甕である。色調は乳褐色で、焼成は硬い。調整は外面にハケ目、脚部内面にハケ目＋板ナデ調整が施されている。以上の弥生土器は、小片で調整も不明な点もあるが菊川式の新段階に比定するものであろう。７は高坏の脚部で、色調は赤褐色である。表面は、風化が著しく摩滅し調整は不明である。年代については、古式土師器ではなかろうか。８は山茶碗系の小皿である。口径8.6㎝を測り、口端部を丸く仕上げる。



写真図版 6　出土遺物



第 7 図　出土遺物実測図

色調は、灰青色で自然釉が内外面に掛る。小皿は、皿山古窯産の製品で13世紀代のものであろう。9～11は近世陶磁器である。9は三足の付く香炉で鉄釉掛けされている。法量は、口径11.0㎝、器高3.9㎝、底部6.4㎝を測る。底部はケズリ調整され平らに仕上げ露胎となる。この土器は、足立順司氏分類の志戸呂焼第Ⅳ期の製品で17世紀後半と考えられる。10は口縁部を直立させ、口端部に平坦面を有するものである。口径は9.6㎝と小型なもので香炉と考えられる。口縁部内外面に鉄釉が施され口端部は釉を

拭っている。志戸呂焼第Ⅴ期の製品で18世紀代のものであろう。11は瀬戸・美濃焼の施釉陶器である本業焼の鉢である。口径は30㎝前後と大型なもので、口端部を肥厚させ、断面バチ状とする。体部の轆轤目が著しい。釉薬は、漆灰釉が施されている。年代は、19世紀代のものであろう。

第Ⅳ章　ま　と　め

今回の調査は本調査であったが、調査区は狭いため遺構の全形や性格を明らかにすることは困難であったが、調査成果をまとめると以下のとおりである。

弥生時代の溝が１ケ所検出され、その溝から菊川式新段階の遺物を搬出しており、当地域における弥生遺跡の広がりを示すものである。この地域では、長池橋遺跡をはじめ、長池Ⅱ遺跡など西方川によって形成された自然堤防上に遺跡の分布がみられ、当時の河川位置を含め自然環境の復元の解明となる資料の一端を補う当遺跡の発見であった。

近世の遺構については、井戸状遺構が検出されている。この遺構の所在する地点は、地区の聞き取り調査で昭和10年頃平川喜太郎氏が屋敷を建て、その後平野氏が移り住み今回の道路計画によって移転となったもので、昭和10年前は畑であったとされる。井戸状遺構から出土した遺物は、19世紀であるため少なくても関連性はないと考えられる。西区の地点で検出された溝等は、いずれも17世紀後半～18世紀代と判断され、この井戸状遺構より少し古いが同一時期に存在した可能性が高いと考えたい。西区の調査地点については、現在の織部忠雄宅の元屋敷があった所とされる。屋敷は、火事によって焼失し、その後は畑となったとのことであるが、いつ頃から屋敷が存在したかは不明である。織部家は、江戸時代には当地に住んでいたことは明らかであるが、屋敷の位置や規模については明らかでない。今回検出した遺構は、年代的にはこの屋敷に関連する可能性は高いと思われるが、今後の調査の課題としておこう。

おわりに、本文をまとめるにあたり足立順司、織部久樹、平川昇の諸氏からご教示戴いた。末尾ながらここに記して深く感謝申し上げます。

参考文献

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1991　「原川遺跡Ⅳ本文編」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第26集
角川書店　1982　「22静岡県」角川日本地名大辞典

報告書抄録

ふりがな 書名	長池（ながいけ）Ⅱ遺跡発掘調査
副書名	
巻次	
シリーズ名	菊川町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第46集
編著者名	塚本和弘
編集機関	菊川町教育委員会
所在地	〒439　静岡県小笠郡菊川町堀之内61　TEL 0537－35－0925
発行年月日	西暦　1997年3月21日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				㎡	
長池Ⅱ遺跡	小笠郡菊川町 加茂字長池	22446	231	34度 44分 00秒	138度 05分 27秒	19960610 ～ 19960617	210㎡	道路整備に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長池Ⅱ遺跡	散布地	弥生～近世	溝　4箇所 柱穴　2本 井戸状遺構　1箇所	弥生土器 陶磁器	

長池Ⅱ遺跡発掘調査報告書

編集・発行　菊川町教育委員会
印刷　株式会社　開明堂
発行年月日　平成9年3月21日